

SIP4D-ZIP規格改定について

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 磯野 猛

Point

- 衛星画像や航空写真等のラスターデータを扱えるようにする
- SOBO-WEB（新総合防災情報システム）のインターフェース仕様を内包する
- EEI1.1に準拠するモデル仕様の定義する

概要

2023年1月に発行されたJSA規格の『災害情報共有のための共通データフレームワークSIP4D-ZIP』を、SIP4Dで運用してきた知見を基に、規格改定の検討を進めています。

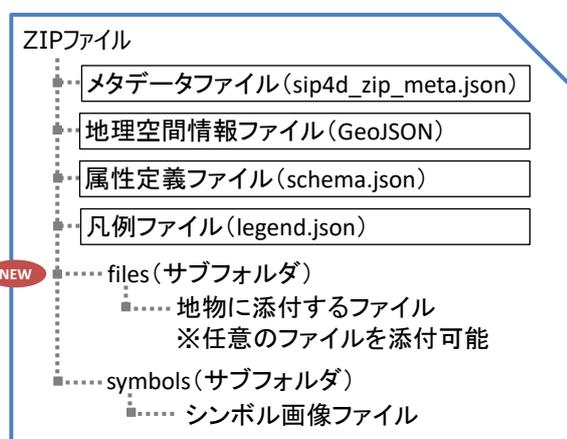
基本構成は変わらずに、扱えるデータの幅が大きく広がります。

SIP4D-ZIPとモデル仕様の関係

SIP4D-ZIPはフレームワークとしての仕様を定義するもので、特定の情報システムに関する詳細な仕様は含みません。システム连接到に必要な詳細仕様については別途定義することを想定し、これをモデル仕様と呼びます。

これは、オブジェクト指向言語における「仮想クラス」と、仮想クラスを継承した「実装クラス」の関係に似ています。

基本構成



基本構成はこれまでと変わらず、ベクターデータ（GeoJSON）を主とします。また、メタデータファイル、属性定義ファイルが必須となるのも変わりません。

重要な変更点として、ベクターデータの地物に対して、データファイルを添付できるようになります。添付するデータファイルに制限はありません。添付するデータファイルの仕様は、モデル仕様で定義することとしています。

SOBO-WEBとの親和性

SOBO-WEBとの接続に必要なメタデータを全て内包します。以下に改定後のメタデータの特徴を挙げます。

- 登録済みのSIP4D-ZIPの登録取消、訂正が可能
- 一時利用範囲（閲覧可能な利用者）
- 二次利用範囲（ダウンロードおよび加工データの配信）
- 三次利用範囲（再頒布の許可）
- 情報提供元が独自に追加可能な拡張メタデータ
- データの空間範囲による検索対応

EEIモデル仕様

令和7年6月に内閣府から公表された『災害対応基本共有情報（EEI）第1.1版』に準拠したモデル仕様を、改定したSIP4D-ZIP規格書に付録する予定です。

EEIモデルの分類26項目のうち、「基盤地図」を除く25項目の94細分項目についてのモデル仕様を定義します。

スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月
仕様検討					
JSA規格化		パブコメ			★ 公開予定
			委員会		

youtube



https://www.youtube.com/watch?v=JWt3V27wu_E

